

2006年4月28日

「リユース市 2006」に関するご報告

環境三四郎 13 期 リユース市 2006 責任者

1、企画概要

主に年度末に引越しをされる本郷進学生や卒業生、また駒場近辺にお住まいの方々から、不要になった家具などの物品を提供していただき、それを主に駒場に新たに入学してくる新入生にかかった経費分のみで提供するという企画。

開催日：2006年4月1日(土)・2日(日) (新入生諸手続き日) 午前10時より

開催場所：東京大学駒場キャンパス 12・13号館前広場

2、リユース市 2006 に関するご報告

一、昨年からの主な変更点

- ①開催日をサークルオリエンテーションの日から諸手続き日へ変更
- ②実質の活動主体である「環境三四郎」の名前をオリエンテーション委員会の主催のもと、協力という形で公表
- ③三鷹寮に倉庫を借り、三鷹寮での回収・配達効率アップを図る

二、広報

①ポスター

50枚程度作成。駒場商店街、駒場キャンパス、本郷キャンパスに貼った。

②ビラ

新入生健康診断日に、環境三四郎における新歓用のカードと共に配布。

A4用紙1枚につきおよそ8枚の小さなビラを作成。計300枚程度配った。

③HP

オリエンテーション委員会、環境三四郎、all-todai.com、akamon.net の4つのHPに広報文を掲載。途中 all-todai.com と akamon.net で主催と協力が正確に明示されていないというミスがあった。この場を借りてお詫びしたい。

④食堂ポップ

⑤立て看板

⑥環境三四郎内・知人を通じて

三、受付

物品提供の受付は電話とメールの2つを通じて行った。電話はリユース市専用のブリペイド携帯を購入。メールは受付用アドレスにメールを送るとリユース市専用メール

ングリストに転送される形にした。また三鷹寮にも専用の受付電話番号・メールアドレスを設けた。受付担当者も分担・交代した。

四、回収

3月18・19・25・26・29・30日の6日間、レンタカーを借りて物品提供者のもとへうかがった。平均して回収日一日につき2台のレンタカーを借りた。運転手は環境三四郎の2年生以上の先輩にお願いした。ナビとして助手席も必ず誰かが乗った。また駒場近辺在住の提供者のもとには、リアカーでうかがった。

五、保管

保管場所はオリエンテーション委員会のご協力のもと、倉庫A、プレハブ倉庫、1号館中庭の紙倉庫、計3箇所を利用。また前述したように三鷹寮内に物品保管用のトランクルームを借りた。キャンパス内の倉庫については、途中倉庫Aの鍵がなくなるといふハプニングがあったようで、実際倉庫Aと紙倉庫の2箇所で足りたと思われる。物品数は昨年を上回り、200以上。一昨年以前は物品数が100程度だったのが昨年は好調で180あまりまで増えた。去年よりも提供者数が少なかった今年、ここまで物品が集まったことはメンバーにとって大きな驚きであった。物品にはナンバリングを施し、写真をとって特徴をノートに記した。また前日には物品の掃除・動作確認も行うことができた。

六、当日

前日にはほぼ全ての物品を開催場所まで運んでいたため、スムーズに作業が進んだ。朝9時ごろからビニールシートを広げ、物品を配置。10時半には購入の受付を開始。持ち帰りの方が多く、物品はあっという間になくなっていったが、新入生が通らない場所であったため、新入生の購入者は少なめだったように感じる。

七、配達

リユース市の翌週、4月8日・9日に物品購入者の中で配達を希望した方に対してレンタカーで配達を行った。大半の冷蔵庫の配達先である三鷹寮には一度に配達した。

八、会計

リユース市2006会計担当者小松より提出した資料を参照。

3、今年のリユース市を振り返って

- ・ 人員不足の解消

例年企画に関わる人員の不足に悩んでいたリユース市であるが、今年は幸いにも最初から最後まで人手不足で悩んだことはなかった。リユース市 2006 のメーリングリスト加盟者はおよそ 20 名。ただしこれは奇跡的な事態であって、この春休みという時期にどれだけ協力者を募れるかということは今後も大きな課題であろう。

- ・ 引継ぎ

去年のリユース市責任者が準備にほとんど参加できなかったため、報告書を頼りに進めていった。しかしながら解らないことばかりで、幸い意欲的に参加してくれた去年の経験者を頼りに行っていた。もし来年もリユース市が開かれるのだとしたら、私自身は今年の実験者として積極的に関わりたいと考えており、少なくとも経験者が数人関わることは開催において不可欠である。

- ・ 事故

車を借りる以上、事故が起こる可能性は拭いきれない。事実、今年を含め毎年多かれ少なかれ事故を起こしてしまっている。人身事故を起こしてしまう可能性があることも完全には否定しきれない。そういった可能性をメンバーでお互いに認識し、それでも車を使ってやるのか十分に話し合っておく必要がある。今年はその認識が上手く共有できていなかったことは大きな反省点であった。

4、終わりに

リユース市 2006 の開催にあたり、皆様にたくさんのご協力、ご配慮をいただきましたことを深く感謝致します。

リユース市を通じて、この企画に対する利用者の需要が極めて大きいことを感じました。地方、あるいは海外から東京にやって来て一人暮らしを始める人間にとって家具にかかる費用は重大な問題であるようです。しかしながら、開催にあたってかかるこちら側の労力はかなり大きいといえます。黒字を出さないという点からしてある意味「奉仕」の活動であるこの企画の前提には、リユース市を通じて多くの楽しさ、喜び、やりがいを感じることでできるメンバーの存在が欠かせません。それ故、リユース市の開催を実際見ていない一年生を中心に企画を行う現状のままでは、継続が難しいと感じます(しかも今年環境三四郎新入生が例年より少ないことから継続が懸念されます)。今後環境三四郎内でもリユース市のこれからについて話し合いを続けていきたいと考えております。